

▶株主メモ

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/ ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

以前は、旧株式会社鈴丹の株主様の特別口座に関するご照会先は、三菱UFJ
信託銀行株式会社でしたが、三井住友信託銀行株式会社になりました。

株主名簿管理人 名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 ☎ 0120-782-031

上場株式等の配当等に係る10%（所得税7%、住民税3%） 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率（所
得税7%、住民税3%）は廃止され、本来の税率である20%（所得
税15%、住民税5%）となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別
所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続
きできませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご
連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されて
いなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託
銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載
し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

▶株主優待

株主の皆様方のご支援に対する感謝の印といたし
まして、毎年2月20日現在の株主名簿に記載された
300株以上保有の株主の皆様方に対し、下記のとおり
株主様ご優待品を進呈いたしております。



300株以上	1,000株未満	1,000円のクオカード
1,000株以上		3,000円相当のカタログギフト

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。



第33期 第2四半期報告書
[2017.2.21.～2017.8.20.]

～Doing it～

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



パレモ・ホールディングス株式会社

証券コード:2778



パレモ・ホールディングス株式会社 誕生

当社は平成29年8月21日をもちまして、パレモ・ホールディングスを持株会社とするグループ体制へと移行しました。持株会社でグループ会社の経営戦略の立案、経営管理を行ない、事業会社は既存の事業に特化して取り組むことで迅速な意思決定、事業環境の変化に柔軟に対応してまいります。ホールディングス体制のもと経営効率の改善を図りつつ、当社の事業構造改革の完遂、その先の永続的安定成長を実現してまいります。

代表取締役社長 **吉田 馨**



株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社第33期第2四半期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第33期第2四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善を背景に緩やかな回復基調で推移する一方、中国をはじめとするアジア経済の減速、海外情勢の不確実性の高まりなどから、景気の先行きについては不透明な状況が継続しました。また、賃金の伸び悩みに加え、社会保険料の負担増が消費性向の低下を招き、個人消費の回復は脆弱なものとなりました。

当社が属する専門店業界は、少子高齢化による人口減少と商業施設の飽和状態、更にはECの市場拡大が進むなど一層激しさを増しております。また、業界全体に人手不足が深刻化する中、人件費の高騰を招くなど厳しい経営環境が続いております。

こうした中において、当社は今期の目標である増益に向け基幹事業の収益向上と新規ブランドの育成に注力してまいりました。また、不採算店舗の閉店については一定の用途をつけ、ブランド転換による既存店舗の活性化のほか、前期に立ち上げた新規ブランドの出店を加速させることで、来期以降の増収、増益に向けた基盤を構築してまいりました。このような取り組み

から、売上高は前期からの不採算店舗の閉店の影響もあり、前年同期比で減収となりましたが、新規ブランドが順調な立ち上がりを見せたことや、既存店舗の売上高前年同期比が堅調に推移したことにより営業利益ならびに四半期純利益については期初に計画した数値を上回る結果となりました。

下半期におきましては、上半期諸施策の結果を検証するとともに、今期目標に掲げた増益に向け全事業部が安定した収益基盤を構築できるよう取り組んでまいります。

また、当社はホールディングス体制により、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治ならびにコンプライアンス体制の強化など、企業の質的向上にも努めてまいります。

なお、前々期からの事業構造改革による諸施策により業績改善が予定通り進んだことから、継続的に配当を実施できる収益基盤が整いつつあることを受け、平成30年2月期末配当として3.00円(年間3.00円)を予定させて頂きます。

今後、より一層の業績向上を図り、株主の皆様へ還元できるよう増配を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、当社の事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q.1 当第2四半期累計期間の業績についてお聞かせください

当第2四半期累計期間の業績は、売上高120億51百万円(前年同期比7.8%減)、営業利益6億67百万円(前年同期比12.6%増)、経常利益6億84百万円(前年同期比13.4%増)、四半期純利益8億50百万円(前年同期比134.0%増)となりました。

当第2四半期累計期間については、当初、例年に比べ気温の低い日が続いたことにより、アパレル事業を中心に春物商品の販売に出遅れが見られましたが、その後は気温上昇に伴い、初夏物、夏物商品の販売は概ね順調に推移しました。しかしながら夏場の天候不順の影響もあり、夏シーズンの主力アイテムである水着、浴衣の販売は不調に終わりました。雑貨事業においては、在庫の適正化、商品鮮度の改善が進む中、昨年には無かったヒット商品が出現するなど売上は好調に推移し、既存店売上高前年同期比についても連続して超過するなど収益の回復が進みました。

このようにアパレル事業においては、昨年の夏シーズンアイテム好調の反動により微減収となりましたが、雑貨事業の収益回復が奏功し全社における既存店売上高前年同期比は99.8%と概ね前年並みの推移となりました。

利益面については、アパレル事業における在庫コントロールの精度向上により店頭の商品鮮度管理が定着したことに加え、雑貨事業の在庫の適正化、ならびに夏シーズン以降の商品鮮度改善が大きく進んだ結果、売上総利益率は前年同期比0.3%の改善となりました。また、不採算店舗の閉店等による経費削減から営業費の低減も進み、営業経費率は前年同期比で0.7%減となり営業利益、四半期純利益ともに増益となりました。

店舗の出退店におきましては、新規出店は前年を大きく上回る17店舗となり、商業施設との契約満了ならびに不採算店舗の閉店を合わせ31店舗の閉店を実施した結果、当第2四半期末店舗数は481店舗となりました。

Q.2 今後の方針ならびに下半期の施策についてお聞かせください

今期は「事業構造改革」の3rdステージであり、「増益の必達」を経営目標としています。また、この下半期から持株会社体制となり、事業会社については既存事業に特化することで、これまで以上に安定的な収益確保に集中して取り組む環境が整いました。この下半期におきましても、上半期に引き続き事業会社を中心に、「基幹事業の基盤固め」「増収、成長に向けた基盤構築」を進めるとともに、グループ全体として、「健全な経営基盤の構築」について重点的に取り組んでまいります。

「基幹事業の基盤固め」については、アパレルのラージサイズ事業でMD(マーチャンダイジング)の精度と在庫の適正コントロールに課題があり、バラエティ雑貨のシーベレット事業においても、在庫の鮮度改善は進んだものの、店舗特性に合わせた商品展開については成果に繋がるレベルには達していません。したがって、この下半期にはラージサイズ事業においてはMD手法の変革を進め、シーベレット事業においては店舗タイプ別のMD精度を高める施策を進めてまいります。

「増収、成長に向けた基盤構築」については、引き続きアパレル事業での新規ブランドと雑貨事業のイルーシー300を軸に更に出店ペースを加速させ、来期以降の増収を現実化させるとともに、ネットビジネスにおいても拡大に向けたインフラ整備を進め、これまで以上のペースで売上を伸ばせる体制を構築してまいります。

最後に、「健全な経営基盤の構築」については、持株会社である当社を中心に、来期以降の成長に向けた経営戦略を組み立てるとともに、健全な経営に向けてグループ全体の統制を進めてまいります。また、業界全体で深刻化している人手不足については、当社の指針である人財経営の観点からも最重点課題として捉え、店舗で不足する要員の確保と、次世代リーダーの育成にグループ全体のテーマとして取り組んでまいります。

以上の諸施策により通期の増益を確実なものとし、来期以降の増収増益に向けた基盤構築を一歩一歩着実に進めてまいります。

アパレル事業の概況

General Condition of Apparel Business

今期の出店は、第34期以降の増収増益に向けた基盤づくりとして、大変重要な位置づけであると認識しております。次代の成長を担う新規ブランドを中心に慎重かつ積極的に拡大しております。

当第2四半期累計期間においては、「Lilou de chouchou (リルデシュシュ)」4店舗、「Ludic Park (ルディックパーク)」6店舗を出店し、ブランド転換を含めた改装も実施してまいりました。今後も新規ブランドの更なる認知度向上に努め、出店拡大を進めるとともに次代の主力ブランド化を目指してまいります。

ギャルフィット



GAL FIT

「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

スズタン



SUZUTAN

「エレガンス&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

リルデシュシュ



Lilou de chouchou

いつまでもかわいく輝きたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

リシェリエ



Recherche

「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

リジェイ・スプル



Re-J

「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした“大人カジュアル”を提案するラージサイズSHOPです。

SUPURE

「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

デイジーメリー



DAISY MERRY

大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレをしたい女性に向けて…かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのりガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライズで提案します。

ルディックパーク



Ludic Park

遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライズで提案します。

雑貨事業の概況

General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、「Siebelet(シーベレット)」を中心に在庫の適正化が進み、商品鮮度の維持、改善が図られたことにより、適正な商品調達が可能となり業績も回復基調となりました。

当第2四半期累計期間においては、「Siebelet(シーベレット)」

シーベレット



Siebelet

「毎日、楽しく」をテーマに、話題性あるファンシー雑貨と生活雑貨を提案します。

インセンス



INCENSE

「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

2店舗、「illusie300(イルーシー300)」4店舗、「INCENSE(インセンス)」1店舗を出店しております。なかでも「illusie300(イルーシー300)」は好業績を維持しており、今後もMDの精度向上を図るとともに、出店拡大に努めてまいります。

イルーシー300



illusie300

「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライズでライフスタイルを提案します。

木糸土・ハレノヒ



木糸土

木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

Hare no hi

「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート、ライフスタイルを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
レギュラー業態	10	12	0	272
ギャルフィット・スズタン他	0	12	△1	213
ルディックパーク・9スクエア	6	0	0	9
リルデシュシュ	4	0	1	9
デイジーメリー	0	0	0	4
リシェリエ	0	0	0	23
ドスチ	0	0	0	14
ラージサイズ業態	0	1	0	44
アパレル事業合計	10	13	0	316

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当第2四半期末店舗数
シーベレット	2	12	0	63
イルーシー300	4	1	0	40
インセンス	1	0	0	32
木糸土・ハレノヒ	0	4	0	15
雑貨事業合計	7	17	0	150
複合店 ^(※)	0	1	0	15
全社合計	17	31	0	481

(※) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

四半期財務諸表

Financial Statements

四半期貸借対照表 (単位:百万円)

	当第2四半期会計期間末 (平成29年8月20日現在)	前第2四半期会計期間末 (平成28年8月20日現在)	前事業年度 (平成29年2月20日現在)
■資産の部			
流動資産	5,100	5,300	5,840
固定資産	5,291	5,509	5,143
有形固定資産	751	578	611
無形固定資産	9	7	6
投資その他の資産	4,530	4,923	4,525
資産合計	10,391	10,810	10,984
■負債の部			
流動負債	5,079	6,211	6,274
固定負債	2,385	2,482	2,632
負債合計	7,464	8,693	8,907
■純資産の部			
株主資本	2,927	2,116	2,076
資本金	100	1,229	1,229
資本剰余金	1,979	1,104	1,104
利益剰余金	850	△215	△254
自己株式	△2	△2	△2
純資産合計	2,927	2,116	2,076
負債及び純資産合計	10,391	10,810	10,984

四半期キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	当第2四半期累計期間 [平成29年2月21日から 平成29年8月20日まで]	前第2四半期累計期間 [平成28年2月21日から 平成28年8月20日まで]
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△301	542
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△57	404
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△850	△0
現金及び現金同等物の増減額	△1,209	946
現金及び現金同等物の期首残高	2,768	592
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,559	1,538

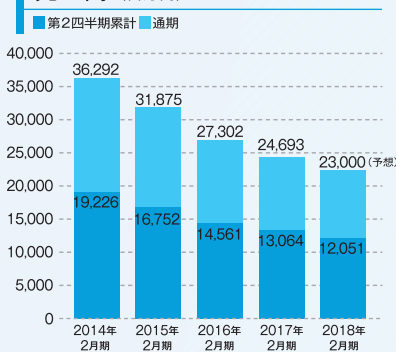
四半期損益計算書 (単位:百万円)

	当第2四半期累計期間 [平成29年2月21日から 平成29年8月20日まで]	前第2四半期累計期間 [平成28年2月21日から 平成28年8月20日まで]	前事業年度 [平成28年2月21日から 平成29年2月20日まで]
① 売上高	12,051	13,064	24,693
売上原価	5,343	5,832	10,971
売上総利益	6,707	7,232	13,721
販売費及び一般管理費	6,040	6,639	13,094
② 営業利益	667	592	627
営業外収益	24	17	31
営業外費用	7	6	12
経常利益	684	603	645
特別利益	161	0	62
特別損失	17	95	179
税引前四半期(当期)純利益	828	508	528
法人税、住民税及び事業税	87	147	210
法人税等調整額	△109	△2	△6
③ 四半期(当期)純利益	850	363	324

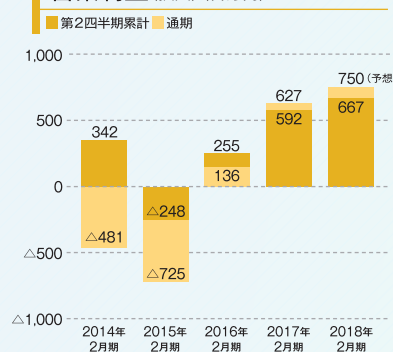
POINT

- 売上高は12億51百万円となり、前第2四半期累計期間に比べて10億13百万円減少しました。主な要因は、不採算店舗閉店による店舗数の減少及びアパレル事業における昨年の夏シーズンアイテム好調の反動減等によるものです。
- 営業利益は6億67百万円となり、前第2四半期累計期間に比べて74百万円増加しました。主な要因は、アパレル事業の商品鮮度維持及び雑貨事業の在庫の適正化に加え、不採算店舗閉店に伴う赤字額の減少ならびに営業費の低減によるものです。
- 四半期純利益は8億50百万円となり、前第2四半期累計期間に比べて4億86百万円増加しました。主な要因は、退職年金制度変更に伴う特別利益1億59百万円及び繰延税金資産の計上に伴う法人税等調整額△1億9百万円によるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、△3億1百万円となりました。主な要因は、売上債権の増加及び法人税等の計上によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、△57百万円となりました。主な要因は、新規17店舗の出店及び改装によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、△8億50百万円となりました。主な要因は、長期借入金の返済によるものです。

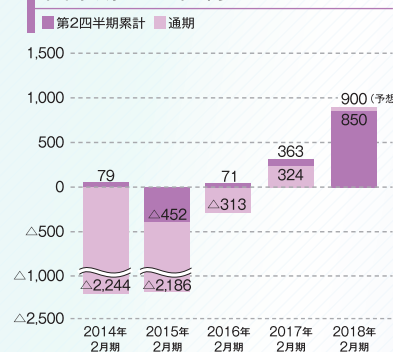
売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)



四半期(当期)純利益(損失) (百万円)



※注:2018年2月期当期の予想につきましては、連結決算による予想となっております。

企業データ

Corporate Data

会社概要 (2017年8月21日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円(2017年7月1日現在)
 本社所在地 〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
 従業員数 2,608名
 (ナショナル社員168名、エリア社員2,440名)

事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2017年8月21日現在)

代表取締役社長 吉田 馨
 常務取締役 永井 隆司
 取締役 木根 潤明
 取締役 竹中 幹雄
 取締役 永田 昭夫
 常勤監査役 土田 新一郎
 監査役 平岡 繁
 監査役 中村 弘
 監査役 今枝 剛

注:取締役のうち、永田 昭夫氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、中村 弘、今枝 剛の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2017年8月20日現在)

発行可能株式総数	27,360,000株
発行済株式の総数	12,051,384株
単元株式数	100株
株主数	6,712名

大株主 (2017年8月20日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・スリー投資事業組合 エンデバー・ユナイテッド・パートナーズ・ツー株式会社	6,040	50.11
株式会社SBI証券	740	6.14
個人株主A	597	4.95
セントラル短資株式会社	507	4.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	275	2.28
パレモ従業員持株会	198	1.64
株式会社三菱東京UFJ銀行	130	1.07
個人株主B	110	0.91
個人株主C	60	0.49
個人株主D	60	0.49

株主構成 (2017年8月20日現在)

